

平成23年度第15回定例会

八王子市教育委員会会議録

日	時	平成24年1月18日(水)	午前9時
場	所	八王子市役所 議会棟 4階	第3・第4委員会室

第 1 5 回定例会議事日程

1 日 時 平成 2 4 年 1 月 1 8 日 (水) 午前 9 時

2 場 所 八王子市役所 議会棟 4 階 第 3 ・ 第 4 委員会室

3 会議に付すべき事件

第 1 第 4 3 号議案 八王子市立学校教職員人事の内申に関する事務処理の報告
について

第 2 第 4 4 号議案 (仮称) 八王子市新体育館等整備・運営事業契約の締結に
ついて

4 報告事項

・平成 2 4 年成人式の実施結果について (生涯学習総務課)

・第 6 2 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の開催について

(スポーツ振興課)

・教育予算にかかわる新聞報道について

(学校教育部)

八王子市教育委員会

出席委員 (5 名)

委 員 長 (1 番) 小田原 榮

委 員 (2 番) 和 田 孝

委 員 (3 番) 川 上 剋 美

委 員 (4 番) 金 山 滋 美

教 育 長 (5 番) 石 川 和 昭

教育委員会事務局

教 育 長 (再 掲) 石 川 和 昭

学 校 教 育 部 長 坂 倉 仁

学 校 教 育 部 指 導 担 当 部 長 佐 島 規

教 育 総 務 課 長 穴 井 由 美 子

学校教育部主幹 （企画調整担当）	平塚裕之
施設整備課長	矢光克彦
学事課長	海野千細
学校教育部主幹 （保健給食担当）	山野井寛之
指導課長	廣瀬和宏
指導課統括指導主事 （特別支援教育・ 教育センター担当）	藏重佳治
指導課統括指導主事 （企画調整担当）	所夏目
指導課統括指導主事 （教育施策担当）	山下久也
指導課前任指導主事	木下雅雄
生涯学習スポーツ部長	榎本茂保
生涯学習総務課長	宮木高一
スポーツ振興課長	小山等
生涯学習スポーツ部主幹 （スポーツ施設担当）	遠藤幸保
国体推進室主幹	富貴澤繁幸
国体推進室主幹	高橋利光
学習支援課長	小松正照
生涯学習スポーツ部主幹 （図書館担当）	中村照雄
生涯学習スポーツ部主幹 （図書館担当）	田中明美
生涯学習スポーツ部主幹 （図書館担当）	玉木伸彦
生涯学習スポーツ部主幹 （こども科学館担当）	齋藤和仁
生涯学習総務課主査	串田欣司
スポーツ振興課主査	田中嘉之

事務局職員出席者

教育総務課主査	遠藤徹也
---------	------

教育 総務 課 主任
教育 総務 課 主事

最 上 和 人
上 村 剛

【午前9時00分開会】

小田原委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成23年度第15回定例会を開会いたします。

いつも申し上げているところですが、電力不足が心配されている中、本市では節電の取り組みを継続しているところで、照明は一部消灯とさせていただいておりますので、御不便をかけますけれども御理解いただきますようお願いいたします。

小田原委員長 日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、3番、川上剋美委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

なお、議事日程中、第43号議案につきましては審議内容が個人情報に及ぶため、また第44号議案につきましては、いまだ意思形成過程のため「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条第6項及び第7項の規定により、非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

小田原委員長 御異議ないものと認めます。

小田原委員長 日程に従いまして、まず生涯学習総務課から御報告願います。

宮木生涯学習総務課長 それでは平成24年成人式の実施結果について、串田主査より御報告申し上げます。

串田生涯学習総務課主査 それでは平成24年成人式の実施結果について報告いたします。

今回の成人式は、1月9日成人の日に、オリンパスホール八王子にて行いました。この成人式は、成人式実行委員会7名が8回の実行委員会を開催し、企画運営を行いました。

まず式典の部では、共立女子第二中学校高等学校コーラス部による国歌・市歌の斉唱を行い、新成人の主張では6名の新成人が主張を行いました。

アトラクションの部では、2分の1成人式を迎えました小学生からのメッセージ紹介、FUNKY MONKEY BABYSのビデオレター上映、八王子高等学校吹奏楽部による吹奏楽の演奏を行い、新成人の皆様の門出を祝福いたしました。

当日は、スタッフ124名の体制で、運営・警備に当たらせていただきました。

出席者数は3,168名、出席率は39.9%となっております。

最後に、とちの木デッキから建物内のホール、受付までの誘導警備についてですが、多少とちの木デッキでの混雑がございましたが、けが人等もなく無事に実施することができました。報告は以上でございます。

小田原委員長 生涯学習総務課からの報告は以上ですが、何か御質疑、御意見ございませんか。

それぞれに御感想があったと思うのですが、いかがですか。

川上委員 今年、きれいなホールでやったということで、新成人たちもきれいな所に入ると身も心もきれいになるのではないかという感じがしました。やはり整えるものは整えなければいけないのかなと感じました。またそこを乗り越えたもので、周りがどうであり、自分が「もっともっと」となってほしいと思いますけれども、あるところまでは周りが整えるのも一つかなと。

2分の1成人のメッセージが、全員に行きわたって、今まではあそこに張ってありますということでしたけれど、これから辛いこともあるかもしれませんが、頑張ってくださいと、10歳の子どもに言われたら、成人は一瞬感じるものがあると思いました。いろいろな構成を考えたり、新成人が3人も希望して応募してくださっています。毎回3名ずつの新成人の主張が内容的にすばらしいし、今の若い人たちの本当の力をわからせてもらった、非常にうれしい、とてもよい成人式だったのではないかなと思いました。

和田委員 私は、新成人の主張の内容が非常にしっかりしていてよかったなと思いました。いろいろな角度から、それぞれの思いがきちんと伝わるようなメッセージが出されていて、立派だったなと思います。

昨年までは外国の方たちの方がしっかりしていて、日本の青年も頑張れよと思っていたのですが、今年は本当に内容が多岐にわたっていましたし、政治や経済の話も出てきたし、今の若い人たちの現状などもきちんと主張されていたと思います。それぞれが考えて、主張されたと思いますし、大変よかったと思っています。

二点ばかり感じているところがあって、ビデオレターなのですから、少し前もって考えておいてもらった方がいいのではないかなと思います。あの方たちのふだんの活動を考えると、被災地にも行っているわけだし、いろいろな取り組みをしている中で、その話が一つも出てこなかった。若い人たちにそういうことも含めて、何か伝えて欲しか

ったという気持ちもあるのですが、昨年も今年もそうだったので、そのところが気になっていたところではあります。

それからもう一つは、今お話があったように、2分の1成人式の子どもたちの内容が非常によかったと思いますので、ぜひ今後もあのような形で、やりとりをするような場にしてもらえたらありがたいと思いました。

金山委員 初めて今回見せていただいたのですが、予想外に静かでびっくりしました。ただ終わってから外でちょっと集まっている方たちがいたようですけども。

今、和田委員がおっしゃったこととほとんど同じなのですけれども、新成人の主張は公募をなさったのですね。何人ぐらい応募されてのうちのなのですか。

宮木生涯学習総務課長 4人応募がありました。外国人の方だけは、こちらからお願いをしました。

金山委員 内容はとても若者らしくてよかったと思いますので、今回の行事の中でメインがあ部分だと思いますので、あちこちいろいろな方が出ていただくとうれしいとお聞きしました。

それからFUNKY MONKEY BABYSのビデオレターなのですけれども、実は昨年第七中の卒業式に、第七中の方がお願いをしてやっていただいたのです。その内容と、そのときもフリートークの形だったのですけれども、私は少し物足りないなと思いました。もう少しメッセージ性を持ったことを引き出していただけたらなと思います。せっかく八王子で人気のあるグループですし、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

小田原委員長 ということですが、補足はありませんか。

川上委員 会場のことも申し上げました。きれいなところで、身も心もということも申し上げました。お二方から出てきましたけれども、式典にメッセージとして送るビデオレターであるということ、彼らたちがどのように認識をしていただいていたのかと非常に不思議に思います。それは頼み方にあるのかもしれませんが、内容を考えてお願いするなど、式辞のかわりですし、お祝いの言葉ですから。気をつけていただければと思います。

小田原委員長 それぞれの立場からのお話がありましたけれども、事務局の側としてもいろいろ感じられたこと、あるいは改めてこういうふうにしようとしたことなどがあると思うのですが、その辺は今日触れられませんでしたけれども、何かございませんか。

宮木生涯学習総務課長 F U N K Y M O N K E Y B A B Y S のビデオレターにつきましては、事務局からの依頼の仕方にも反省点があると思いますので、もし今後お願いをする場合には、その辺は十分に考えて依頼をしたいと思います。

それと反省点としましては、とちの木デッキの混雑、南口とコンコースの混雑が非常にすごかったので、そちらの警備、周知、2 回目のときに特にいっばいで、会場は開いていたのですけれどもなかなか行けなかったという声も若干ありましたので、その辺を反省したいと思います。

小田原委員長 全国的にこれまでの報道では、荒れた成人式等もあったのですが、今年は落ちついた雰囲気の中で行われているというように感じました。それは川上委員の、形から入るといふ、会場の問題もあったかもしれませんが、今年はどういう年かということの自覚が新成人の皆さんにあって、そうばかなこともやっていられないという気持ちを、かなりそれぞれの成人の思いとして持たれていたのではないかとも思われるのです。

成人式とは何なのか、成人式を我々が祝うという形を取っているその趣旨を、もう一回確かめていくことだろうと思うのです。前半に比べ後半の方がかなり静かだったのは、人数の問題もありましたけれども、それぞれ参加、出席されている人たちの思いが表れているのではないかと思います。そんなところも、私は強く感じました。

それからビデオレターについては、北島三郎さんや、松任谷由実さんの話もあって、そういう方に比べたらかなり違う雰囲気の内容だと思いますけれども、いろいろな受け止め方もあると思いますので、総合的に判断して進めて行っていただければと思います。そのほか、何かつけ加えることはございませんか。

小田原委員長 それでは、成人式の実施結果についての報告は、以上ということで、次にスポーツ振興課から御報告願います。

小山スポーツ振興課長 2 月 5 日に開催いたします第 6 2 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の開催につきまして、参加チーム数、今年度の大会のコンセプト等について御説明をいたします。説明は、担当の田中主査からいたします。

田中スポーツ振興課主査 それでは、お手元の資料に基づいて、第 6 2 回全関東八王子夢街道駅伝競走大会の開催について、御説明させていただきます。

今回は、冒頭のタイトルにもありますように、6 2 回目という非常に長い歴史のある大会であります。下の 2 番のところを見ていただくとわかりますように、昨年 4 8 0 千

ームというかなり大きな数をお迎えしましたが、今年もそれを更新しまして、487チームのエントリーがございます。

日程は平成24年2月5日ということで、もう三週間を切って、今、非常に準備に追われております。会場は例年どおり、開会式、閉会式とも、都立南多摩高等学校をお借りして行うことになっております。

スタートは、JR八王子駅北口をスタートしまして、甲州街道バイパスをずっと西に行き、めじろ台方面を回って、また最後は甲州街道に戻って来るというコースとなっております。

主な参加チームですが、今年のお正月にテレビを賑わせていた箱根駅伝のチームも3チーム、こちらに載っております中央大学、山梨学院大学、順天堂大学と、有名なチームも参加しております。それから女子の箱根駅伝と言われます杜の都駅伝という女子の大会があるのですが、そちらの方からは玉川大学が参加していただいております。高等学校では、全国高校駅伝大会の男子の部、東京実業高等学校、埼玉栄高等学校が参加しております。女子の部では、埼玉栄高等学校と長野東高等学校が参加しております。全関東という名前にはなっておりますが、かなり広範囲から来ておりまして、遠くは大阪や、山形からの参加もあります。

今年度は、昨年度に起きました3月11日の東日本大震災の震災復興ということも考えまして、スポーツの力で側面からそういった方々の支援になればいいということで、側面からのスポーツ支援ということの一つテーマの中に盛り込んでおります。その具体的な例としましては、岩手県に山田町がございます。これは沿岸地域の町で、大津波でほとんど壊滅状態になりました。そこから、山田中学校の男女チームを御招待しまして、この大会で走っていただくことになっております。この中学校、実は、全国中学校駅伝大会に何度か出ておりまして、2年前は3年連続で女子が出ております。八王子も何度かこのチームと対戦したことがございまして、そういったこともありまして、ぜひ呼ぼうということで、御招待させていただきました。

今回参加費に、少し参加支援金を加えさせていただきますまして、東北の物産を買って選手の方々に配るという試みも考えております。

2月5日ということで、天気がどうなるかということなのですが、八王子の元気を届けて、東北にも元気を届けたいということで、当日はぜひ山田中学校を皆さんで応援していただければと思います。

それから、ゲストランナーとして谷川真理さん、4区間を一人で、ファンランという形で走っていただきますが、こちらも日ごろ沿道にご迷惑をかけたり、いろいろ御協力をいただいているので、その御礼を兼ねてファンランをやっていただくことになります。

日にちが迫ってまいりましたけれども、無事成功させたいと思っております。

小田原委員長 スポーツ振興課からの報告は以上ですが、何か御質疑、御意見ございませんか。

和田委員 昨年、この会で話題になったのですけれども、繰り上げの問題とか、あの辺は何か改善されていますか。

小山スポーツ振興課長 繰り上げの問題につきましては、確かに割と高額な参加料をいただいておりますので、心情的には全チームの全選手に走っていただきたいのはもちろんあるのですけれども、やはり交通事情等のこともございまして、かつ、私どもの大会は一応選手の走破能力、男子でいいますと、5 kmを22分30秒で走れる以上の方に参加してくださいとお願いをしているので、周辺に与える影響も大きいことから、今年度も昨年度同様、男子の部の3区の終了時点で規定時間に達しない場合は、大変心苦しいことではありますけれども、失格ということにさせていただく形にしております。

小田原委員長 繰り上げスタートをするわけですか。

小山スポーツ振興課長 しません。

小田原委員長 繰り上げスタートではないということですか。繰り上げスタートをしたらいかがという話にはならなかったのですか。繰り上げスタートをしていけば、制限時間とか、道路の問題等はそれほど影響しないのではありませんか。

小山スポーツ振興課長 確かに繰り上げスタートをすると、全体の時間は多少短くなるどころがあるので、そこで一齐に走り出すことがありますし、参加チームが非常に多いことから、集計等に非常に手間を取ることもございまして、もともと大会の参加基準というものもあらかじめうたわせていただいているところがございまして、今回につきましても繰り上げスタートは行わないことにしております。

川上委員 失格チームは、毎年どのくらいですか。

小山スポーツ振興課長 私が聞いたところで、昨年は7チームくらいです。

川上委員 7チームが同時に走り始める繰り上げスタートが、たくさんのチームが走るということの混乱にはなりませんよね、7チームでしたら。

それと、計算というのも、トップチームではありませんので、すぐには影響がない、

最終的にはきちんとした数字が出ている。今のお話だけだと、繰り上げスタートをしない理由にはならないような気もするのですけれども。例えば、何十チームもいつも失格があるから、何十人も同時に走り始めるのは逆に危険だということだったら、話はわかりますけれども、何かちょっと、そのような気がするのです。

条件をつけていっちゃるということで、そこで線を引くのも一つの考え方だとは思いますが、今、いろいろなところで駅伝をやっていますけれども、繰り上げスタートは結構多くやっていますし、そのことが少し気になります。

小山スポーツ振興課長　ただいまの御意見も踏まえまして、今年度で南多摩高校を使えるのが最後になりまして、来年度からコースの変更をしなければいけないことになっておりますので、今の御意見も踏まえて、来年度以降は再度検討させていただきたいと思っております。

榎本生涯学習スポーツ部長　今の失格の関係なのですけれども、一番問題になるのは、高尾警察から、めじろ台の駅周辺については、2回周回をするということで、住民から大変苦情が多いということです。例えば3区の途中で失格の場合にはそこで競争を中止させてしまうのです。ですから、めじろ台の例えば4区一斉スタートはできますが、まだ途中2区までしか、時間でいろいろな方がいるのです。ぎりぎりの人もいるし、遅い人はまだ2区ぐらいを走っている方もいます。その人を4区まで待っていたら、その交通規制が全然あけないので、時間になれば途中で走っている3区でも2区の人でも、その時点で競争を中止ということで、交通を解除する形になるので、4区を走るだけだと、4区の区間記録が出ますけれども、全然参考にならないということもあって、これは運営委員会で、陸協も一定の警察との調整も含めて、対応を取った方がいいだろうということで。それとこの大会も全関東ということで、あまりレベルが低いと質の問題も出てくるということで、それは陸連もしっかりと基準をつくってやりましょうということで、それと地元住民に、少なくとも交通渋滞、交通規制を早く解除することが一つの目的ということで、それについては、募集をかけるときに関係者の監督会議でもその辺の話をしておりますので、その辺は十分理解をしていると思います。来年、コース変更もありますので、それも踏まえてもう一回再度検討はしますけれども、地元住民の方の意向も取り入れていかなければいけないと思っています。

小田原委員長　基本的なコンセプトという話が冒頭、課長からあったのだけれども、基本的なコンセプトが何かということですね。基本的という言葉がついたか、つかなか

ったか忘れてしまったけれども、山田町からの参加があるということで、そっちの方のコンセプトなのか、そうではなくて62回の伝統あるものを言うことになるのだけれども、今の部長のお話だと、めじろ台周辺の苦情があるということは、本駅伝が市民から理解されていないということでもある。愛される駅伝であれば、少しの交通不便があったとしても、皆で応援しましょうとなってくれればいい話なのだけれども、そうではないというところに若干の問題がある。

それから、繰り上げということは、後も走っていいですよということを保証してあげるわけだから、あるチームが極端に遅くなったとしても、その区間の遅さだけであるわけだから、御理解いただける話ではないかなと思いますので、いろいろ勘案して、コース変更を含めて、そのときに考えられるところは考えていただきたいと思いますが、いかがですか。

そのほかいかがですか。よろしいですか。

小山スポーツ振興課長 冒頭に申しましたコンセプトというのは、全体のということではありませんで、今回の震災の復興支援ということについてのコンセプトということで申し上げました。

あとめじろ台地域の住民の方の御理解なのですけれども、今のコースに移りまして、今回10回目の大会になるのですが、移した当初はやはり大変な苦情をいただくことが多かったのですけれども、回を重ねるにつれまして、地元の方も逆に楽しみにしていただいているという声をたくさんいただく形になっております。大会前にいろいろなところに、ご迷惑をおかけしますのでごあいさつに伺うのですけれども、最近、了解しているよという形が非常に多いのですが、ただ、市民の方100人いたら、100人全員が理解をしていただけるということはなかなか難しいこともございまして、中にはやはり理解をしていただけない方も、若干数ではございますけれどもいらっしゃるということで、その方たちの御意見を一切無視することもできませんので、その辺の配慮もしているということでございます。

小田原委員長 ということですが、よろしいですか。

いろいろ問題もありますけれども、孟母三遷の教えというのは、今、なかなか通用しないで、学校があることが公害だという話にも言われるところもございますので、全員の理解を得るということは非常に難しい、これは確かにそうなのです。だけれども、大方の理解を得られる、そういう愛される駅伝を目指して、ぜひまた今年も好天に恵まれ

ますことを祈っています。

それでは、駅伝についての報告は、よろしいですか。

スポーツ振興課の報告は以上ということで、ほかに何か報告する事項等がございますか。

委員の皆様の方で何かございませんか。

和田委員 成人式の日には募金活動をしていましたよね。あの結果はどうなったのですか。

宮木生涯学習総務課長 4,800円でした。

小田原委員長 突然の話だったのと、司会の方からの話だけだったので、だからあの一言で終わってしまったことで、額も小さかったですし、御報告から漏れたのかもかもしれませんけれども、気になるところではありました。

そのほかございませんか。

私の方からお伺いしたいと思うのですけれども、各新聞でこのところ市長選のことが取り上げられているのですけれども、ある新聞で、教育について報道された部分がありまして、その中で幾つか気になるところがあるのですけれども、これについて、教育委員会として反論、あるいはこうであるという説明の必要性というのはないのかどうかをまずお伺いしたいのです。例えば、「学力低迷、救えぬ予算」とタイトルがあったのですが、これはそのとおり認めてよろしい話なのか、その見解は。

坂倉学校教育部長 朝日新聞の記事なのですが、ご存じのようにこの記事での理科の講師は、以前ここにもかかって、また議会でも問題になったような教員で、その辺に聞いていること自体が、非常に意図的なところが見えるところでございます。

この中に書いてあります一人当たりの教育費の予算等が、多摩で幾らというのは事実です。ただし、総額でいったときは、もちろん規模も大きいですから、八王子市が一番大きいですし、それ以上にいろいろな形の中で、例えば、契約が多摩地域より極端に八王子市が低くて、逆に言うと同じものが安く買えるときがありますし、今の状況の中で予算がどうこうと言われたときに、執行率が必ずしも100ではない。つまり、残している学校もあるということを考えますと、一つにはここに書いてあるような、金額が少ないことイコール教育にかけていないというのは違っていると思っていますし、また、今話にあった、いわゆる予算が少ないからそれが学力向上なり、人材育成につながらないということは決してないと思っています。

ただ、この中で書いてある、教育費の関係の中でかけるべきところもあるだろうし、

かけなくていいということはないですけども、今で足りているところもありますので、これにつきましては今の段階で、新聞社にどうこうということもありませんので、どなたが市長になられたにしろ、当然、学校教育部と市長への説明の場もありますし、それからふだんの中で取るべきものは取っていくし、また今の段階で必要のないものは必要ないと言っていくつもりでございます。

特に、選挙前ですので、公約の中には、我々から見まして、今の政策と違う、それはもちろん選ばれた方の政策ですから、しかしながら必ずしもそれが本当に八王子市の児童・生徒のためになるのか、もっと言えば八王子市の将来像の中で正しいのかどうか、その辺についてはお話をさせてもらえるところですけども、逆にいいますと、こういう形で出たということは、もっと教育にかけろという意味もありますので、かなり市議会の中で教育に厳しい議員がいらっちゃって、その方が逆に教育に対する熱意があるということもありますので、こういうものを利用した中で、取るべきものは取っていくようにつなげていきたいと思っております。

小田原委員長 時間を取って申しわけないのだけれども、今の部長のお話にありましたように、ある講師がこう言ったというお話があります。そのお話の中に、例えば、顕微鏡が何台だということも言われているわけです。学校設置基準で決められている顕微鏡の台数というのがどのくらいか、それに足りていないということを言われていることについてはどうなのですか。

そういう予算とか、学校設置基準に反するような備品整備状況であるとするならば、これについて我々は考えないといけないわけです。その辺は、指導課、あるいは施設整備課はどう把握していて、こういうのをそのまま、そうですかと、56万市民にそのままを教育委員会として認めていくということがあっていいのか。私は、その辺を問題にしたいと思っているわけです。

穴井教育総務課長 顕微鏡ですとか理科の備品については、前回、議会でも御質問もございましたけれども、この講師の問題が出たときに、本当にそうなのかというお話もございました。私どもの方では、基準というのは金額で決まっているので、先ほど部長が言ったように、八王子市の場合は学校数が多いので、買う時に他市よりも安く買えるということがありますので、金額で一概には比べられないところですが、一定程度必要な備品は、平成21年度のスクールニューディールでかなりの備品をそろえさせていただいて、古いものは入れかえた状況になっていますので、学校現場からは備品が足りなくて

授業に支障が出ているとか、そういう声は聞いておりません。

小田原委員長 設置基準を外れたところが、一つもないということでしょう。なのに、こういう話になっていくというのは極めて遺憾であると言っていいわけでしょう。

穴井教育総務課長 記事に対してですか。

この記事自体の数字については、最初のレンズが欠けた顕微鏡がどうのこうのと書いてあるところは、どなたから取材をしたのかは疑問ですけれども、例えば管理が悪くてそういったものを放置している学校があるとか、そういうことであればうちの方はそこまでは確認しておりませんので、この記事に対して一つひとつ、これについては事実ではないということを実証することはできません。

小田原委員長 そういうことがあるということだよ。それを把握していないということは教育委員会としての管理能力がまた疑われてくるわけではないですか。

学校長、あるいは理科の担当からはそういう話を聞いていないとすれば、そういう事実はないと言っていいと思うのです。ただ、部長の話がありましたように、金をかけられる部分、金をかけないといけない部分についてまだ不足しているとするならば、それは我々としても積極的に予算獲得の方向で動かないといけないわけです。そのところをきちんと把握して、学力が必ずしも十分伸びていないとするならば、何が問題なのか、金をかければいいのかという話ではないというところを、はっきりと我々としては認識して、市長がどういう方になろうとも、教育としてはこういうふうに進んでいくのです、方向性を定めているんですということは持っていないといけないと思うのです。

それは、例えばアシスタントティーチャーの話もありますし、学級数の問題もあるし、あるいは学力向上のためにどういう施策をしているのかというようなところが、十分にあるわけですから、問題は何かということになります。こういうことをやっていますので、こういうところをもっと明確に、はっきりと表に出していきますということを言ってほしいのですけれども、いかがですか。

山下指導課統括指導主事 記事の中で学力低迷と書かれております。これについては、平成21年度の全国学力・学習状況調査の結果を、この定例会での話題をここに記載されているということでございますけれども、こちらの方では、学力については本市の重要な課題であるにとらえているという認識でありますので、アシスタントティーチャーは、この記事の中では19校にとどまると書き方をされていますが、市の財政が厳しい中で、この19校について、確保は引き続きできている状況であるにとらえています。

それから、基本的に人を学校に配置することは、少人数の指導ですとかTTということで、集団の中で習熟度の差があります。それに応じて指導していくのは、非常に大事なことだと思っておりますので、これは積極的に進めてまいりたいと思っています。

ただ、基本的には教員の質がかわって、授業がかわっていく、その一つの手だてとしてアシスタントティーチャーを導入しているということですから、この人を配置することとともに、指導課としては学校への研究発表への支援、校内研修、学校訪問の中で、個々の管理職、教職員に対して指導を地道に行っていく、そのことを通じて学力向上を図っているというところでございます。

石川教育長 記事を書く前に、その記者から取材を受けたものですから、私も慎重に事実に基づいて話をしたつもりなのですが、あの記事を見たときに、おかしいなということは非常に強く感じました。

冒頭に書いてあった、実験器具が壊れているというのは、先ほども話があったと思いますけれども、議会でも質問されました。そのときに、指導担当部長は、基準に照らして、それを割っているわけではないので問題はないと、調査の結果をそこで述べているわけですが、記者と話したときには、私も議事録もすべて目を通して行きました。いろいろな取材をした上で、ここで確認のための取材をしていますというお話でした。何か意図的に偏った書き方をしているという感じを、私は読んだときに受けたのですが、例えば、学力調査の結果についても、都の平均を上回っているのが数項目でしたが、それであとは皆下回っているというけれども、その下回っているのは、ほとんど平均なのです。逆の書き方をすれば、ほとんどが平均で、2、3項目については上回っているという書き方をするとああいう書き方をするのは、全く違うわけです。

それから予算に関しても、どこでも財政上厳しいけれども、とにかく民生費がすごく増えている中で、全体の予算が落ちている、ほかとの比較で考えれば教育については割合ほとんど落ちていない。落ちたのは、特に新築工事が一段落をして、その分のハード面がかなりの金額が落ちているから、一人当たり落ちているのだよという説明をしたにもかかわらず、こういう形で書かれているということで、部分的に取ってみれば決して間違っただけをその記者が間違っていると言わないのだろうと思いますけれども、全体説明をした中で、都合のいいところをつまみ食いをして、自分のシナリオどおりに書いたという、そんな感じは強く受けたところで、そのことについては、今後会う機会があれば抗議をしたいと思いますけれども、もう既に報道されてしまって、改めてそのこと

を抗議したところでこうでしたという記事にはならないと思いますので、折りを見て考えたいと思います。取材を受けた者としては、非常に気分はよろしくはないです。

小田原委員長　私が言いたいのは、例えば、学力が低迷しているというのを指導課が認めてしまったところとか、つまりどういうことかということ、教育予算が低いから学力が低迷しているのだというのは認めるわけにはいかないと思うわけです。この記事でも言っているように、マンパワー、記事が言っているのか人が言っているのかわからないのだけれども、私は教員の方だと思うわけです。そこのところは十分に力を入れてやっているのだと。力を入れているのだけれども、必ずしも研修体制が整っていない部分があるかもしれないので、そこはこれからさらに強化していくのだということだと思うのです。学級の定数の問題とかも、これは国が決める話なので、だけれども市独自としてそれを取れるのかということ、なかなかそうはいかないだろうという話もあるわけです。

一人当たり幾らかけているかという話になると、これは1校幾らという形の部分は変わらない部分があるわけです。だから、1校の子どもたちの数が少なければ、一人当たりのかけている数値が上がるはずなのだけれども、一人幾らという話ではなくて、市あるいは区、まちの全予算に対する教育の割合を考えると、八王子は確かに減ってはいるのだけれども、これについては、他市と比べてその割合が極端に減っているのかと言ったら、そうではないということも言えるわけです。

それは何年か前に予算編成のときに、グラフも示されていたわけです。割合は、決して他市に引け劣る割合ではなくて、むしろ教育にかけている割合は結構高いと、私は思っているわけです。

そういう点で、我々として予算が減るのを甘んじて受けているわけではないのだということ、はっきりとさせておきたいと思うわけです。いかがですか。

佐島学校教育部指導担当部長　まず一つ、指導課が厳しい認識で取り組まなければいけない、学力の低迷を認めるという記事になっているわけですがけれども、これは取材のときに担当から話をした内容というのは、ほぼ都と同様の傾向が見られるけれども、上回っている部分が幾つかというところでは、さらに努力をしていく必要があるだろう、このままでいいという認識ではないということで、当然のことながら予算が少ないから学力という話は一切していないわけで、記事の中ではそれがいかにもつながっているような書き方をされているというのは、本当にどうなのかなと疑問に思うところがあるところです。

先ほど委員長の話にありましたけれども、予算の見方についても単に教育関連 26 億円減と書いてありますけれども、先ほど教育長がおっしゃっていたように、ハードの部分の減額があるにしても、ソフト部分については維持している、また部分的には充実している部分があるわけですね。その中で一つ、マンパワーの話が出ていますけれども、私は人を学校に入れて行くということに当たって、各学校でいろいろな工夫をしているのです。お金をかけないでも、地域の人材あるいは学生、あるいは保護者の力もかけながらやっているというすごい努力を、八王子はしていると思いますし、学校で、困っているのを何とか配置してください、サポートを下さいという声をいただくことがあるのですけれども、現状を見せていただく中で、学校内での努力をしていない学校に人を配置したとしても、絶対に生きないのです。学校でもとことんやって、ここは厳しいなというところには人を配置すれば、その分人もお金も生きると思っていますので、そういう中で各学校の取り組みをしっかりと見ながら、本当にお金が生きるところ、あるいは人が生きるところに配置、配分をしていくことが私どもの務めではないかと思っていますところなんです。

小田原委員長 余りこのことについて時間をかけてもしょうがないので、これでやめますけれども、皆さん何かございませんか。

和田委員 こういう教育にかかわる評価をしたりとか、指摘に関して、一方ではよく言われている教育格差、メリトクラシーとかいう、裕福な家庭や経済力の高い教育を受けた子どもたちの学力が高くなっているとか、そういう格差が広がっていくということが指摘されている一方、習熟度別学習や学級を編成したり、あるいは T T を行っているから学力が上がっているかというところではないという研究の結果も出ていて、教育の内容を、ただ単にお金であったり、人を配置することによって、向上するとか、学力が高まるという単純な見方をすること自体が今の子どもたちの実態であるとか、あるいは先生方の指導力の問題などを考えたときに、決断できないという結論を出せない状況にあるわけですね。だから、一方的な、ある角度から物を見て批評することは、非常に簡単なだけけれども、必ずしもそうまい具合にいかない。ただ、やるべきこととしては、実態がどうなっているかということや、検証だけはきちんとしていかないと何が有効で個別にこの学校にはこういうことが有効で、この地域にはこういうことが有効だということ踏まえながら、予算を投入したりとか、あるいは人の配置をしていくような考え方でいいのではないかなと思うのです。

ひとくくりにして何かこれをやればこうなるという単純なものではなくて、それぞれこれをやればいいのではないかという一つの要素として、いろいろな取り組みを教育委員会はしているわけなので、その結果を検証したり確かめていくような、姿勢を持ち続けていかなければいけないなと思っています。

小田原委員長　大阪では、何とか教育委員会のような、上に二文字つくようなことが言われていたり、それから教育は政治的に中立でなければならぬわけですけども、政策として教育というのは必ず取り上げられている世の中になっている中で、私たちとして政治がどういうふうに動いていこうとしたとしても、理想というか、理念をしっかりと持って当たっていかなければいけないと思いますので、それを確認していきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それでは、以上で公開の審議は終わりますけれども、ここで暫時休憩にいたしまして、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退室願うこととなります。よろしく願いします。

開会は、10時15分ということでよろしいですか。それをお願いいたします。

〔午前9時53分休憩〕